

「**すこやか**家づくり」のシステム工法／自立と介護の家づくり

有限会社 ケアライフ・システム

〒601-8335 京都市南区吉祥院砂ノ町16

Tel (075) 693-0333

Fax (075) 202-8455

<http://www.care-life.info>

(2008/12月号)



皆さんいかがお過ごしですか。

はやいもので、2008年も11ヵ月が過ぎてしまいました。

12月は様々な行事・祭事があります。最も一般的で盛大なのがクリスマス。

いつ頃からなのでしょう？あんなにイルミネーションで飾り立てるようになったのは…

今では花街だけの行事に思われている**事始め**や、神社仏閣の行事として取り上げられる**煤払い**もお正月を迎えるための大切な年末行事です。

そして、**忘年会!!** 皆さん、年末年始の飲み過ぎ・食べ過ぎには充分ご注意を。

飲酒運転なんてとんでもない!! 「飲んだら乗るな! 乗るなら飲むな!」 『ダメ、絶対』 根絶飲酒運転!!



事始め・煤払い

12月13日は事始め。正月の準備を始める日という事で**正月事始め**といえます。

毎年テレビのニュースで、祇園の芸子（芸妓）・舞妓さんが、京舞いの師匠である井上八千代さんの所へ挨拶に行く映像が放送されます。

元々は、この日と決まっていたわけではなく、この頃からお正月の準備を始めということで、門松やお雑煮を炊くための薪など、お正月に必要な木を山へ取りに行く習慣がありました。

新しい年神（歳神）様をお迎えする大切な行事ですから、当然日を選ぶようになりました。平安の頃から長く使われ続けた暦（宣明暦：インド伝来の二十七宿）による占いで、「**鬼宿日**（きしゅくび）」と呼ばれる吉日です。そして12月13日がこの「鬼宿」に当たるため、この日が**事始め**の日とされるようになったようです。

お正月の準備といえばもう一つ大掃除があります。別名**煤払い**（すすはらい）。

一年の埃を掃い、一緒に罪穢れも祓って新たな気持ちで新年を迎えたいと思うのは、誰も同じだと思います。江戸城では毎年12月13日に煤払いをしていたそうで、将軍様のお膝元の江戸の街でも次第に定着していったようです。

こんな川柳も詠まれています。なんのことを詠んだ川柳かわかりますか？

あくる日は 夜討ちと知らず 煤をとり

そういえば、お歳暮もこの時期ですね。**歳暮の礼**を略したものです。

やはり元々は、年神様をお迎えするためのお供え物を贈るものだったそうです。

最近では、景気の低迷や虚礼廃止の風潮で、以前ほど派手ではなくなってきましたが、何だか年々早くなってきて、少し忙しなく感じているのは私だけでしょうか。

お歳暮としてお嫁さんの実家に鰯（ぶり）を送る地方もあります。

鰯は縁起の良い出世魚。また、寒鰯（かんぶり）は脂がのって冬に美味しい魚です。



大歳神・御年神／年神(歳神)

年の字は先月号で書いたように稲の実りのことで、年神様を祀るという事はその年の豊作を祈願するということになります。また一方で、年神様は家を守ってくれる先祖の霊として祭られる地方もあります。

都市部では、中世頃から**年徳神・恵方神**と呼ばれ、縁起が良いとされて方位学にも取り入れられていきます。

年神様は念仏が嫌いで、『念仏の口止め』という行事があるそうです。

正月は年神様をお迎えするためのお祭りでした。昔は亡くなった人の魂は山へ行き山の神様となり、春には里に下りてきて豊作をもたらす田の神様となり、秋には収穫後に山へ戻り、また山の神様になると考えられていました。その山の神様が正月には『年神（歳神）様』となり、子孫のもとに訪れ、豊作と子孫の繁栄を護ってくれると信じられていました。家の内外を清め飾り付けをし、心も新たに新しい年を迎える準備をするので、死を連想させ仏教色が強い念仏を故意に排斥したのでしょうか。

12月16日から翌年の1月16日の『念仏の口開け』まで1ヶ月間念仏を唱えないという地方があるそうです。何処かといわれると返答に困るのですが…

神話によると、**大歳神**（おおとしのかみ）は素盞鳴尊（すさのうのみこと）と神大市姫神（かみおおいちひめのかみ）の子で、稲荷神として有名な宇迦之御魂神（うかのみたまのかみ）と兄弟神で、共に穀物の神様です。**御歳神**（おとしのかみ）はその御子神で、毎年の穀物の実りを司り、豊年満作をもたらす神様です。

冬至／一陽来復

冬至とは、天文学的には『地心における太陽中心の視黄経が270度となる瞬間』と定義されています。

右図の、地球から見て「270度」を示す線上に太陽が来た瞬間が冬至です。

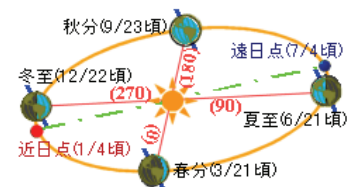
「・・・それがなに？」で、実生活から見ると、北半球では『太陽南中高度が一年中で一番低くなる日』で、『昼の時間が一年で一番短い日』といえます。

次に、暦の歴史から見た意味はというと。太陰太陽暦（旧暦）では、前年の冬至の日を求めるところから暦の計算が始まるそうです。この起点になる前年の冬至を**天正冬至**（てんせいとうじ）と呼びます。

もう一つ**朔旦冬至**（さくたんとうじ）という言葉があるそうです。およそ19年毎に11月1日（朔日）が冬至になることがあり、朔旦冬至と呼び、19年毎に巡ってくることは、政治が正しく行われている証拠と考え、宮中で盛大な祝いが行われたんだそうです。

それから、易（えき）から見た場合11月は、『地雷復（ちらいふく）』。全て陰の気で覆われた10月（坤為地（こんいち））の後で、陽の気が仄に見える様子を表した言葉です。

太陽は、冬至の日まで徐々に日差しは弱くなり、日の照る時間も短くなって力が弱っていくように見えます。冬至は太陽の力が一番弱まった日ということになります。しかし、力が一番弱まった日ということは、この日を境に再び力が強まる（甦る）日であるともいえます。このことから『一陽来復の日』として尊ばれました。



冬至南瓜（とうじかぼちゃ）・柚湯（ゆずゆ）

冬至の日には南瓜を食べたり柚湯に入ったりされる方も多いのではないのでしょうか。

南瓜の語源はカンボジア経由で日本に伝来したことによります。

南瓜も柚も南方から渡って来た太陽をイメージさせる色をした食物だからでしょうか。

理由をご存知の方がいましたら是非お教え下さい。ご連絡お待ちしております。

小豆入りの冬至粥や南瓜と小豆の煮物を食べる地方もあるそうです。



※ この記事は、いつも愛読(?)している『かわうそ@暦』さんのホームページから抜粋掲載させていただいています。

11月17日、『幻の漆喰』・『清活量』・『音響熟成木材』が毎日新聞のくらしナビ覧に掲載されました。

そして、高齢者・障がい者対応住宅や化学物質過敏症の方のための住宅を手がけている弊社も紹介されています。

すこやか&スマイルへのご意見・ご感想をお待ちしています。

また、こんなことが知りたい、こんな特集をして欲しい等ご要望がありましたら是非お寄せ下さい。

FAX : 075-200-1034 E-mail : care-life@zeus.eonet.ne.jp